

令和 5年 8月 4日

## 令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

しがけん		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
米原市立息長小学校	米原市教育委員会	公立

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
息長小学校	<a href="https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/wysiwyg/file/download/1/263">https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/wysiwyg/file/download/1/263</a>

※必要に応じて行を追加すること。

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
息 長 小 学 校	<a href="https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/wysiwyg/file/download/1/622">https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/wysiwyg/file/download/1/622</a>	<a href="https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/wysiwyg/file/download/1/622">https://okinaga-e-maibara.edumap.jp/wysiwyg/file/download/1/622</a>

※必要に応じて行を追加すること。

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

<特記事項>

特になし

### 3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校の子どもたちは、明るく素直で決められたことは誠実にやり遂げようとする力をもっている。反面、従順で受け身の姿勢が多くみられる。やりたい、知りたい、話したいことなどの思いは、個々に持っている。しかし、集団の中で自分の思いを伝えることは難しく、周りの雰囲気に合わせて自分の行動を抑制してしまう傾向がみられる。とりわけ表現することの弱さ、表出することの自信のなさがみられる。そこで、英語科の学習を通して、子どもたちが自信をもって、積極的に人とかかわる力を育成することが大切であると考え、取り組みを進めてきた。

保護者対象の学校評価アンケートでは、「小学校で英語の学習をすることは、大事だと思いますか」の設問に対して全校の95%の方が大事だと考えていることが分かる。反面、「英語に触れることに興味や関心をもつようになりましたか」の設問では、肯定的にとらえている保護者が上の学年になるほど低くなる傾向が見られる。合わせて児童対象の学校評価アンケートでは、「英語の学習が好きですか」の設問では、上の学年になるほど低くなっている。「英語の学習は大事だと思いますか」の設問で6年生でも90%が大事だと考えているため、やはり英語に対しすすんで学習していこうとする意欲に課題があると言える。

ただ、逆をいえば下の学年の意欲は高い水準であることが児童対象の学校評価アンケート「英語の学習が好きですか」の設問からうかがえる。特に中学年では、DVDやALTとの会話、英語を使ったゲーム等、活動的に学ぶ機会がより多く、伸び伸びと表現できる場を保障しやすい面がある。こうした学習を楽しむ中で、より英語が身近なものとなり、日常会話の中で使用できることが期待できる。

また、児童対象の学校評価アンケートの「声に出して言えますか」「聞くことができましたか」の二つの設問を比較すると、どの学年も話すことに対する評価が低い傾向がうかがえる。英語の学習が嫌いな理由の中に、「声に出して話すのが苦手だ」「うまく英語で話せない」「発音がむずかしく話しづらい」など、話すことを要因に上げる児童が多い。新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、コミュニケーションを主とした活動ができないこともあるが、より積極的に発声しコミュニケーションをとることができるように授業を改善していく必要がある。

## (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

全国学力学習状況調査の児童質問紙では、英語の学習に肯定的な意見は70%程度となり全国平均並みの結果となった。子どもたちにとって、学習することに良さや必要性は認識されているが、まだコミュニケーションツールとしての英語と位置づけるようになるには不十分であることがうかがえる。

また「自分には、よいところがあると思います」の設問では全国平均より高い数値であった反面、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」などの設問で全国を下回ることから、根気強く学習に取り組むことに苦手意識を有していることがうかがえる。

## 4. 課題の改善のための取組の方向性

まず1つめに、「日常生活の中で英語に触れる機会を増やす」ことである。本校では英語専科が3～6年の指導を担当している。そのため、英語の授業以外で英語を使う場が学級担任任せになる。そこで、学級担任が積極的にクラスルームイングリッシュを使い、子どもたちがより多く英語に触れる機会を作っていくようにする。またそのためにも、英語専科以外の研修を進めていく。

2つめに「反復練習を積極的に取り入れる」ことである。本校では週1回、15分のモジュールで英語の学習を行っている。この内容を授業の内容とより関連づけ、反復練習が行えるようにしていく。このためにも、英語専科と担任との打合せを綿密に行い、授業参観をより積極的に行うことが必要であろう。

こうして、子どもたちに自然と身につく英語を増やし、少しでも抵抗感無く英語に触れることができる場づくりを進めることで、下の学年での楽しさを上の学年へもつなぎ、意欲的に英語を学ぼうとする子どもを育てていきたい。